

令和 6 年度 【 学園研究費助成金＜ B ＞ 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ カワイ ケイコ
氏 名 河合 桂子

研究期間 令和 6 年度

研究課題名

哺乳帳モデルの開発：助産師が哺乳帳を用いる意図と支援の実際に関する質的記述的研究

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	河合 桂子	看護学部	助 教
分担者	奥川ゆかり	看護学部	准教授
分担者	中嶋 文子	看護学部	教 授
協力者	倉田 真衣	看護学部	助 手

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究の目的は、助産師の支援において哺乳帳を用いる意図や支援の実際を明らかにし、臨床における哺乳帳の役割および意義を考察することである。育児は 24 時間体制であり、出産直後は母児ともに劇的な変化が生じるため、助産師は刻々と変化する母児の状態をタイムリーにアセスメントし支援に繋げる必要がある。一般的に、母児の 1 日の情報は、電子カルテから把握し経過に応じた比較をすることが可能であるが、タイムリーな支援の実践には、ベッドサイドにある哺乳帳の活用がより効果的ではないかと推測される。しかしながらこれまでに、助産師が哺乳帳を活用する意図や活用の実際について明らかにした研究は皆無である。

本研究の成果は、哺乳帳の概念モデルに根拠を与える。その結果、看護学・助産学における哺乳帳教育の必要性を提起し、出産直後の母児への有用な支援に繋がる可能性がある。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

アドバンス助産師の認証を受けた助産師を対象にグループインタビューを実施する。インタビュー内容は、対象者の属性および哺乳帳を用いた支援の実際と哺乳帳の役割とする。インタビューはインタビューガイドに沿って実施する。1 回のグループインタビューは 3 ～4 名程度とする。研究メンバー 2 名はファシリテーターとして参加し、研究対象者のエンパワメントに貢献できるようにファシリテートする。インタビューに要する時間は 1 回 40～60 分を予定し、分析のために録音を行う。インタビューは、対象者が希望するプライバシーが確保できる部屋にて実施する。

インタビューで得られた内容から逐語録を作成し、内容分析法を行う。本研究は、相山女学園大学看護学部倫理審査委員会の承認 (No.216) を得て実施する。

3. 研究成果の概要（600 字～800 字程度で記述）

2024 年 9 月から 12 月に、アドバンス助産師 8 名を対象にグループインタビューを行った。30 代は 2 名、40 代は 4 名、50 代は 2 名であり、助産師の臨床経験年数は 10 年目から 31 年目であった。

得られたデータを逐語録に起こし、誰の発言か分かるように、参加者別にアルファベット記号を付し、助産師 ID とした。語りの意味内容に注目してコードを作成し、類似するコードをまとめてサブカテゴリーを抽出した。その結果、助産師が哺乳帳を用いる意図、支援の実際として、〈スタッフの教育に活用〉〈母乳カンファレンスでの活用〉〈ケアの振り返りに活用〉〈多職種間での活用〉〈児の排泄の把握〉〈児の黄疸の確認〉〈児の体重減少の確認〉〈母児の状態を統合して把握できる〉〈授乳頻度の確認〉〈母親の頑張りの記録〉〈退院に向けて母親の自立を促す〉〈母親の自信につながる〉〈母親と助産師のプランの共有〉〈母親の意向を読み取る〉〈電子カルテでは得られない情報がある〉〈スタッフ間のケアの共有〉〈スタッフの母親の主観の違い〉〈母親のコメント欄は自由に活用〉〈アセスメントツールの一つ〉〈母親を直接見ることはできない〉〈記入による母親への負担〉〈母親が授乳時間にとらわれてしまう〉〈スタッフが授乳時間にとらわれてしまう〉〈母親が頻回授乳を自覚してしまう〉〈スタッフの達成感につながる〉、以上 25 のサブカテゴリーが抽出された。今後、サブカテゴリー、カテゴリーの順に抽象度を上げて、更に分析を進める予定である。

4. キーワード（本研究のキーワードを 1 項目以上 8 項目以内で記載）

① 哺乳帳	② 助産師	③ 褥婦	④ 質的記述的研究
⑤ 母乳育児	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。

既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

研究成果は、2025 年 10 月 10 日～11 日に開催予定の日本母性衛生学会にて発表予定している。また同学会誌に投稿準備を進めている。